

周辺の
みどころ

白鬚神社の周辺には数多くの寺社などが多くみられる。

●登録有形文化財 福井三四郎家住宅主屋（びれっじ2号館）

8号館まである「たかしまびれっじ」の一つ。醤油の醸造販売を行っていた、大溝城下町の町屋。

●大溝城跡

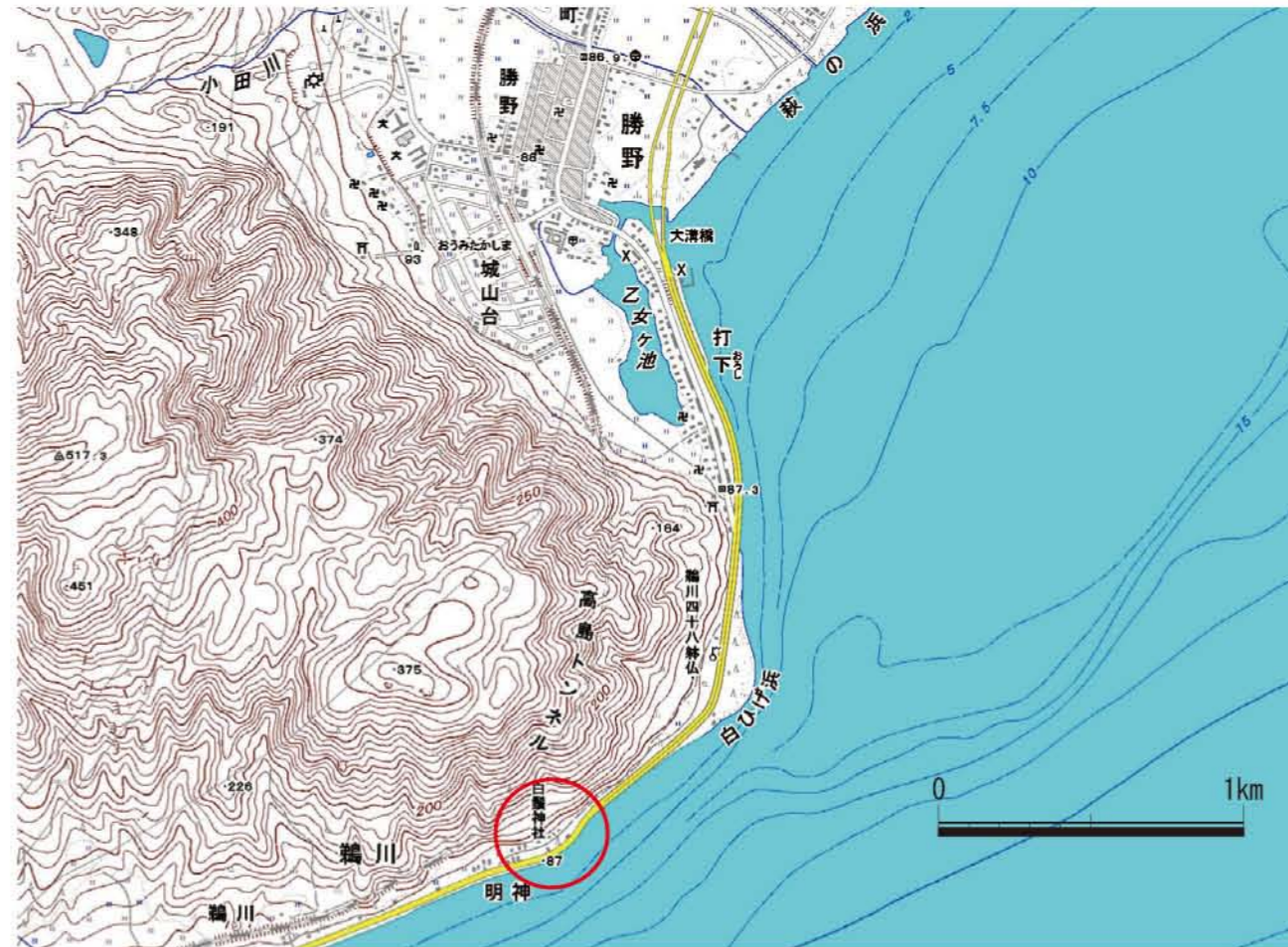
天正6年（1578）に築城された大溝城の本丸跡。内湖（乙女ヶ池）などを要害とした水城。別名「鴻溝（こうこう）城」。



福井三四郎家住宅主屋（びれっじ2号館）

●鶴川四十八体石仏群

花崗岩の高さ1.6mの阿弥陀如来像群。室町時代後期に観音寺城主の佐々木六角義賢が亡き母の菩提を弔うため建立。



[アクセス]

JR湖西線「近江高島駅」下車
江若交通バス13分 鶴川線「白鬚神社前」バス停下車 徒歩3分

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

●高島歴史民俗資料館 TEL 0740-36-1553

しらひげ
白鬚神社
高島市鶴川



湖中の鳥居（びわこビクターズビューロー提供）

近江高島の湖沿いの国道を往くと、沖島を背に湖中に立つ、白鬚神社の朱色の鳥居が目を引く。白鬚神社は全国の白鬚社の本社とされ、湖西地方を代表する滋賀県の古社である。社殿は琵琶湖に向かって開かれ、鳥居によって海とつながる。

現在では国道を車が走りかきかきであるが、かつては海からの船による参詣も可能であったろう。

湖に臨む社殿と湖中の鳥居は、人々の信仰とともに湖との深いつながりを想起させる水の宝である





琵琶湖からみた白鬚神社

白鬚神社

所在地 高島市鶴川

琵琶湖と白鬚神社

白鬚神社は、高島市の南端、比良山地の北東端に位置する岳山の山裾が琵琶湖岸に迫る明神崎に所在する。

神社の草創は、垂仁天皇の頃と伝えられ、「授近江国無位比良神從四位下」と「三代実録」の貞観7年(865)正月一八日条にあり、この「比良神」が、比定されるという。

祭神は猿田彦命を祀り、全国的に分布する白鬚社の本社とされ、延命長寿の神としても知られている。

湖中に鳥居から「近畿の巖島」とも呼ばれている。室町時代末期に描かれた重要文化財の屏風「近江名所図」の右隻に、湖中に建つ白鬚神社の朱色の鳥居が見られることから、この頃には、既に琵琶湖の中に鳥居が建てられていたと考えられる。その後、昭和12年(1937)に、大阪の薬問屋である小西久兵衛氏の寄進によって復興された。現在の鳥居は、国道から58.2m沖合の位置に、昭和56年(1981)年に建立された。

高さ(湖面から)12m、柱間7.8mである。

白鬚神社本殿(重要文化財)

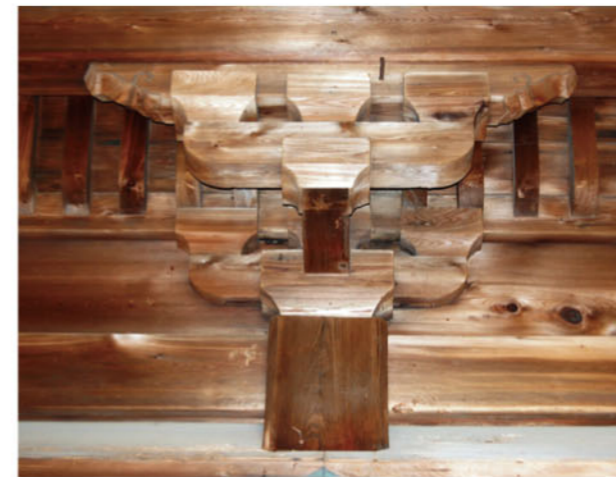
本殿は、正面三間、側面三間の正方形(一辺6.2メートル)の身舎の四周に、縁高欄の束を兼ねた軒を支えるための柱(軒支柱)を設けた切目縁を廻らせる。棟高は約8.8m。正面に一間の向拝を設けるが、向拝柱は拝殿の側柱となっている。身舎内部は、2室に分かれ、正面側の三分の一が下陣、背面側の三分の二が御神体を奉る内陣である。

建立年代は、棟札や墨書銘から慶長8年(1603)で、願主の豊臣秀頼の命により、片桐且元が奉行として、播州の大工の手により建立された。また、「別当山門・・・」と記されていることから、当時は延暦寺と関係が深かったこともわかる。

屋根は入母屋造、檜皮葺であるが、明治12年(1879)に新たに建てられた正面側の拝殿の入母屋造の屋根と一体となっているため、権現造



右手前が拝殿、左奥が本殿



出組の詳細



本殿身舎組物

のような外観である。明治41年(1908)以前は、屋根はこけら葺きであった。

先に記した「近江名所図」と室町時代に描かれた県指定の「比良庄絵図」に白鬚神社が描かれている。両図にある本殿も、権現造の姿に見える興味深い。

組物は社寺建築独特の部分で、斗と肘木を相互に組み合わせ前方に持ち送りとして突き出し、軒を支える桁を受け、深い広い軒を造り出す役目をはたしている。

身舎の組物は、大斗から一手外側に平三斗を載せる出組、中備(組物の間)は斗の下にばち状の束の立つ間斗束、縁先の軒支柱上は大斗と先端に繰形のついた絵様肘木(実肘木)を組み合わせる。

重要文化財白鬚神社本殿は、向拝の臺股の彫刻や手挟の絵様などに、桃山時代の特徴をよくあらわした、仏堂風の湖西地方を代表する神社本殿である。